

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年度	インターン番号	TA205	タイプ	提案型
派遣国	モザンビーク共和国			派遣都市	マプト市
受入機関	Petroleos de Mocambique S.A. (PETROMOC)				
受入機関概要 (事業内容等)	モザンビーク国内において、ガソリン等の石油製品の輸出入・国内販売を行う国营会社。 同国エネルギー省傘下(当時)				
派遣期間	2013年12月2日～2014年2月28日				
現在の所属先	Marubeni India Private Ltd.			当時の所属先	丸紅株式会社
現在の所属部署	化学品部			所在地	インド/デリー
区分	大企業			性別	男

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

元々、所属機関で海外の天然資源に本邦の技術を応用して付加価値をつける案件を担当していました。その中で、本インターンシップ事業を知り、資源国としての将来性豊かと思われるモザンビークの文化や慣習、天然資源に関わる諸状況について理解を深めたく、PETROMOCへインターンの受入れを申し入れ提案型事業への応募に至りました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

主に天然資源開発状況の調査・関連法規等の調査等を行っていました。同国は近年発見されつつある鉱物資源等の開発・利用に関してのルール作り等が進められており、国外からも多くの注目を集めています。その最前線の現場で各省庁・政府機関等を訪問して最新の状況を調べ、それらの枠組みの中で本邦とモザンビークがどのような協力を行えるのか、受入機関の担当者と検討しました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

受入機関の担当者と日夜熱い議論を交わした中から出てきたのが、同国で産出が期待される天然ガスを原料に、モザンビークが現在100%輸入に依存しているガソリンを本邦の技術を応用して生産する事業案でした。それにより、同国の天然資源を単に輸出して換金するのではなく、同国の国民の日常生活へ裨益させること、そして本邦の技術を移転し知的雇用の促進も図ることができます。我々のこのアイデアは同国政府の着目するところとなり、たまたまインターン期間中にモザンビークを公式訪問された安倍総理大臣とゲブーザ大統領(当時)の立会いの元、「日本・モザンビーク投資フォーラム」の席上に披露され関連の覚書が調印されました。国家首脳が見守る中で自分たちが考えたアイデアが取上げられたことはインターンシップ中の大きな思い出となり、受入れ機関の担当者と、言葉にできない達成感を共有したことを覚えています。

インターンシップ風景



2014年1月の日本・モザンビーク投資フォーラム調印式の様子。



インターンシップ終了時に受入機関の同僚が開いてくれた送別会。

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私はこのインターンシップで得られる経験は大きく2つの種類に分かれると思っています。1つは派遣国でビジネスを行う際に直接的に役立つ経験、もう1つは広く海外ビジネスで役立つ経験です。

私の場合、前者は、現地でたくさんの友人・縁に恵まれたことでした。モザンビークは近年こそ諸資源の開発や安定した政治により、海外にも比較的OPENですが、1990年代まで内戦を行っていたため政府機関や経済、国内の有力企業や商習慣などの一般情報が得づらい国となっていました。

私は、インターンシップの同僚に恵まれたことで人脈を広げることができ、結果、例えば、資源の利用方針の議論は某省庁の担当者に、法規制の運用はその下位組織のマネージャーに、といった様にある特定のTOPICSを適切な人物と議論できるようになりました。とても基本的なことですが、それはインターンシップ中に得られた人脈のおかげです。いまま受入機関の同僚たちとは公私含め連絡を取り合っており、それは一緒に机を並べて共通の目標に向けてインターンシップを行えたからこそと思います。

また、私はいま、所属機関の駐在員としてインドの企業に派遣されています。モザンビークでのインターンシップと同様に日本人が職場に一人の環境で現地の人たちと業務にあたっており、そこでもやはり、日本では「当然」と思われている常識を捨てる柔軟さが求められます。例えば財務関連の書類一つをとっても、日本では「会社の財務状況が健全であるか」を示すことが基本コンセプトであるのに対しインドでは「株主が投じた資金がきちんと維持・運用されているか」という考え方でフォーマットが作られています。それらは同じ情報を提供していますが、コンセプトが異なるため、実際に書類を作成する作業上では集める情報や、社内外関係者との調整が若干異なってきます。このような、現地ルールを噛み砕いて理解し自分の作業に落とし込む動作は、インターンシップ期間中に学んだものに通じています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

このインターンシップの大きな特徴は、志を同じくする仲間がいること、そしてAOTS(現HIDA)・JETROといった経験豊富な諸機関やその職員方からのきめ細かなサポートが受けられることかと思えます。辛いこと、楽しいこと、悩み等も共有し、時に励まし、時に指導してくれる人たちがいることは、大変心強いです。

本邦の若者が内向きだといわれる様になって久しいと思います。本制度の様に、現地に滞在し内側から体験できる機会はそうないと思います。そこで得られる経験は海外旅行や出張等では得られないものばかりです。一步勇気を出して挑戦する価値があると思います。

現在の活躍の様子



2014年11月からインド企業に勤務中(現地の展示会風景)



2014年11月からインド企業に勤務中(同僚と会社創立記念祭に出席)